

# グサイタマは過去のこと 先端技術産業の発展目覚ましい彩の国 埼玉

大 滝 英 征 (〒338 浦和市下大久保 255)  
関東支部埼玉ブロック長 電話 (048) 858-3436  
埼玉大学教授 工学部

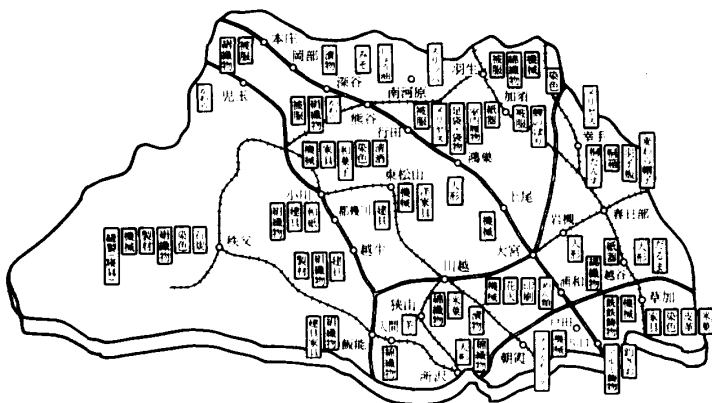


図 1 地場産業の主要産地

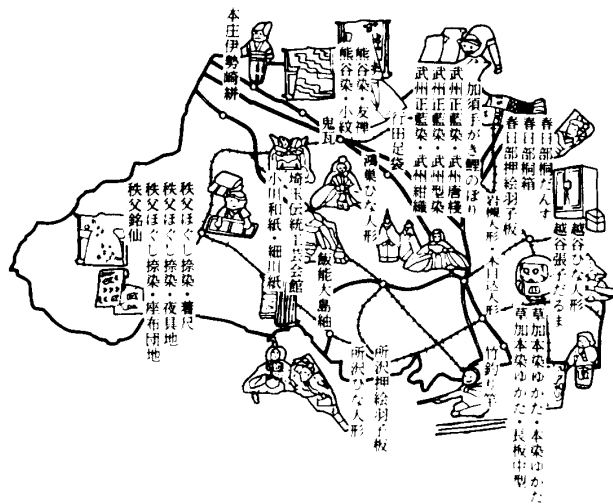


図 2 伝統的手工艺品産業

埼玉県（製品出荷額全国 6 位）の企業は、東部、中央、西部、比企、利根、大里、児玉、秩父地域に分散し、地域ごとに特徴が生まれている（図 1）。秩父はセメントの街から半導体技術の都市へ、大里、児玉は花卉の街、東京への新鮮野菜の供給の街へ変貌（へんぼう）を遂げている。これには、関越高速道路、新幹線の開通により流通体系が一変してしまったことが寄与している。今や、従来のグサイタマイメージを一新、躍動感あふれる先端技術産業県へと姿を変えている。

東京に隣接する中央地域には、本田技研工業（株）、凸版印刷（株）、日産デゼル（株）、ゼクセル（株）等大企業があり、それに関連する中小の企業も集中している。このことは、製品出荷額、生産品目にも色濃く反映されており、製品出荷額は、本田技研工業（株）を抱える狭山市（1兆708億）が断トツで、次いで、鋳物の町としての印象の強い川口（8311億）、大規模工業団地を整備している川越、上尾、大宮と続く。生産品目も上記企業に関連したものが多く、電気機械（2兆8000億）、輸送機械（2兆8000億）、化学（1兆3000億）、一般機械（1兆3000億）、食料（1兆6000億）である。しかし、これを支えるのは中小企業（従業員 29 人以下の事業所は全体の 86.4%、従業員数は全体の 34.7%：下請企業数は全国 5 位）である。親企業からの要請は、コストダウン（76%）、納期の短縮・厳守（47%）、品質管理の徹底（40%）で

ある。これらの要請および円高にこたえるため、徹底的な合理化を進める一方、親企業に依存しない、足腰の強い企業を目指して、世界に冠たる独自技術を開発した企業も多く見られる。

また、早々と海外進出を果たし、成功を収めている中小企業もある。

その一方、従業員の熟練度が低い、十分なスタッフがいらない等、経営上の問題を抱え、自社の将来の経営を悲観視する企業も 20% 近くある。そのため、県等が主体となって産官学交流プラザ、産業人クラブ、異業種交流会等を設立。この会員企業の技術力等を母体として、未技術力企業への技術支援、向上の役割を果たしてきている。

いっぽう、県内には、素朴で温かみのある伝統的手工業も数多く立地している（図 2）。桐ダンス（春日部）、鯉轡（加須）、足袋（行田）、人形（岩槻）は全国的な知名度を誇っている。埼玉の風土や、人々の生活に調和した「彩の国埼玉の結晶」として県民の強い支持を得ている。

このような状況を勘案し、ブロックでは産学懇話会を新たに設立、非会員であっても日本機械学会行事に参加しやすいように図っている。また、夏季には小・中学生対象のもの作り教室を開催し、工学への関心を高めるように努めている。いっぽう、講習会、講演会も定期的に開催、最新技術情報の提供をし、親近感のある学会へと脱皮を図る努力を重ねている。